

群 教 セ	F12 - 01
	平17.225集

「中学校編情報モラル指導資料集」の作成

長期研修員 星野 綾子

（研究の概要）

本研究は、急速に進展する情報社会で、適切な情報活用を行うための基本となる考え方と態度を中学生に身に付けさせるために行ったものである。各教科等における情報モラルの指導場面例や教材研究のための授業展開例、ワークシートなどを盛り込み、情報モラルの育成を図る授業実践に役立つ「中学校編情報モラル指導資料集」をWeb形式で作成した。この資料については、情報モラルに関する群馬大学との共同研究に活用した。

キーワード 【情報教育 情報モラル 中学校 指導資料集】

主題設定の理由

急速に進展する情報社会で、これまでになかったインターネットや携帯電話などを利用した犯罪やトラブルが急増している。これらの犯罪やトラブルは、年々低年齢化の傾向にある。

平成17年度、本センターで実施した「中学生の情報活用に関する意識調査」(3,198名回答)から、家庭でインターネットができる生徒が69%、携帯電話を持っている生徒は43%という実態が分かった。生徒たちが、大人の目の届かないところで自由にインターネットや携帯電話を利用できるようになり、興味本位に出会い系サイトにアクセスしてしまったり、安易に電子掲示板に名前を書き込んでしまったりして、犯罪やトラブルに巻き込まれる事件が起きている。

複雑化するネット上の犯罪やトラブルから、生徒が自分で自分の身を守る力を身に付けるために、学校において「情報社会で適切な活動を行うための基となる考え方と態度」である「情報モラル」を育成することは重要であると考え。また群馬県教育委員会が作成した「平成17年度学校教育の指針」の中にも、情報モラルの指導を行うことは、喫緊の課題として示されている。

本年度開催された情報化推進リーダー養成講座の折に実施したアンケート調査の結果、参加した中学校46校すべての情報主任が情報活用能力の育成に当たって、生徒に情報モラルを身に付けさせることが重要であると答えている。また、その効果的な指導場面として、社会科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの各教科・領域があげられていた。

これらのことから、中学校においては情報モラルの指導が必修の指導内容に位置付けられている技術・家庭科の時間だけでなく、各教科・領域で情報モラルの指導を行う必要があると考えた。

本研究を進めるに当たり、置籍校(沼田市立利根中学校)の教師に情報モラルの指導についてアンケート調査を行ったところ「情報モラルの指導は必要だと思えるが、どこでどのように指導するか、その内容と位置付けが難しい」という意見が多く出された。これまで情報モラルの指導を技術・家庭科に頼っていた教師にとって、具体的に何をどのように指導するかがとらえにくかったり、教材研究をするにも、教科指導や生徒指導、校務処理などで十分な時間が確保できなかったりすることが考えられる。また、情報モラルの指導については「幅が広く、中学校でどこまで理解させるべきか悩む」「体験に基づいた理解をさせるのが難しく、実践する態度を身に付けさせることが難しい」などの意見もあった。これらのことから、情報モラルの指導を、各教科・領域で扱えるようにするために、生徒の情報モラルを育成するための授業実践に役立つ指導資料集が必要であると考えた。

そこで、情報モラルの指導場面例や年間計画例を示したり、授業実践に役立つ教師用解説や授業展開例、ワークシートなどを備えた「中学校編情報モラル指導資料集」を作成したいと考えた。必要な資料を簡単な操作ですぐに活用できるように、Web形式を用いて構成することにより、中学校の各教科・領域において生徒の情報モラルを育成するための授業実践に役立つと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

中学校の各教科・領域において生徒の情報モラルを育成するための授業実践に役立つ「中学校編情報モラル指導資料集」を作成し、授業実践を通してその有効性を検証する。

研究の見通し

以下のような手だてを用いれば、研究のねらいに即した「中学校編情報モラル指導資料集」が作成できるであろう。

各教科・領域において情報モラルの指導が行える具体的な単元や内容の例を示した情報モラルの指導場面例を示すとともに、中学校での情報モラルの指導内容が一目で分かる年間計画例を作成する。

指導内容に基づいた教師用解説や授業実践に役立つ授業展開例、ワークシート、配布資料を作成する。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 各教科・領域における授業実践の必要性

中学校で情報モラルの育成を図るためには、情報モラルの指導が必修の内容に位置付けられている技術・家庭科の時間だけに頼らず、各教科・領域においても、教師が積極的に機会をとらえ、指導を行う必要があると考える。

なぜなら、情報モラルの指導においては、基本的には「人と人との間のコミュニケーション」であることを常に意識し、日常のモラルを適用させて考えていく必要がある。そして、指導内容が生徒の日常生活において生かされ、実現されることが望ましいと考える。そのためには、各教科・領域の授業の際に、実際にインターネットを活用する場面や情報モラルの指導内容にかかわる内容を学習する場面で実践的な指導を行うことが有効であると考えた。

また、中学校学習指導要領総則にもすべての教科などの指導に当たってコンピュータを積極的に活用するとされている。すなわち情報モラルに関する指導についてもすべての教員が、それぞれ担当する様々な教育活動の中で、指導することが求められていると考える。このことから、各教科・領域における授業実践が必要であると考えた。

(2) 授業実践に役立つ指導資料とは

教師が、各教科・領域において積極的に情報モラルの育成を図る授業実践を行うには、まず教師自身が情報モラルへの理解と教材研究を行う必要があると考える。しかし、教材研究をするにも、教科指導や生徒指導、校務処理などで十分な時間が確保できない現状がある。

そこで、本指導資料集は、中学校段階で生徒に身に付けさせたい情報モラルの指導内容を精選し、それぞれの指導内容について、教師用解説と授業展開例を示す。さらに、授業実践ですぐに役立つ資料として、ワークシート、配布資料を用意する。これらの授業展開例、ワークシート、配布資料は、PDF形式と文書ファイル形式で作成し、そのまま印刷をして、すぐに利用したり、教師が生徒の実態に合わせて加工できるようにする。

(3) 生徒に身に付けさせたい情報モラルの指導内容

中学校段階で生徒に身に付けさせたい情報モラルの指導内容を16項目に精選し、情報モラルを各教科・領域で指導するに当たって、何をどのように指導するか、指導内容を教師がとらえやすくするために、「情報の収集」「情報の発信」「ネットワークの利用」「コミュニケーション」「セキュリティ」の五つに分類した(表1)。

表1 指導内容の項目

<情報の収集> インターネットの利用 有害サイトへの対処	情報の信頼性
<情報の発信> 人権プライバシーの尊重 著作権などの尊重	個人情報の保護 Webページの作成と公開
<インターネットの利用> インターネット上のエチケット 健康上の問題	ネットショッピング
<コミュニケーション> 電子メールの受信と送信 携帯電話の利用	電子掲示板の利用 チャット・オンラインゲーム
<セキュリティ> コンピュータウイルス	ユーザID・パスワードの管理

指導内容のそれぞれの項目では、生徒にとって日常的で身近な出来事として考えることができる教材を取り上げ、自分で考え判断する意識を高めさせ、情報社会で適切な活動を行うための基になる考え方と態度を育成したいと考えた。

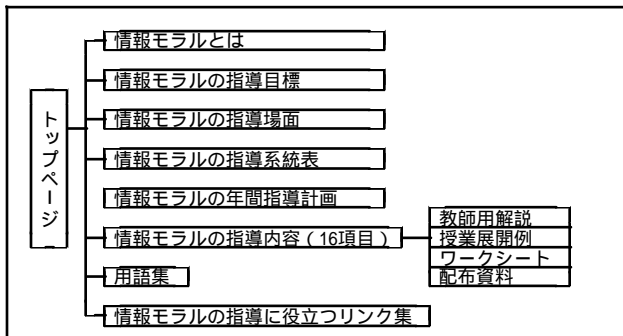
なお、項目の精選に当たっては、前述の情報化推進リーダー養成講座の折に実施したアンケート調査の項目の一つ「情報モラルの指導内容に必要なと思われる教材について」の調査結果や、平成

16年度に群馬県教育委員会から発行された「ぐんまIT活用ガイド～授業編1～」に示された中学校での指導内容を参考にした。

2 資料集の構成

本指導資料集は以下の構成で作成する(図1)。

図1 本指導資料集の構成



3 資料集の内容

(1) トップページ

画面左のフレームは使い勝手を考えて、掲載内容のどのページにも、すぐに移動できるようにメニューを設定し、指導目標や年間計画例、指導場面例、指導内容、用語集など見たいページをクリック一つで表示できるようにした(図2)。

図2 トップページ

<p>中学校編 情報モラル指導資料集 トップページへ <本資料集の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報モラルとは 2. 情報モラルの指導目標 3. 情報モラルの指導場面 4. 情報モラルの指導系統表 5. 情報モラル年間指導計画 6. 情報モラルの指導内容 7. 用語集 8. 情報モラルの指導に役立つリンク集 	<p>中学校編 情報モラル指導資料集</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報モラルは、情報社会を生き抜くための必修課題です。 ◆情報モラルの育成には、学校全体で計画的に取り組みましょう。 ◆情報モラルの指導は、「いつでも、どこでも、何度でも」機会をとらえて実践しましょう。
---	--

(2) 情報モラルとは

ここでは、情報モラルの指導を行う上で柱になる内容を提示した。また、授業実践を行うに当たって、生徒の実態把握や教材研究の参考資料として役立つように、現在の中学生の情報活用に関するアンケート調査の結果や中学生が巻き込まれたトラブルの例などを掲載した。

(3) 情報モラルの指導目標

本指導資料集では、情報モラルの指導目標として、群馬県教育委員会発行の情報モラル指導資料集(平成16年発行)に掲載されている「目指す生徒像と目標」を引用した。また、技術・家庭科以外の教師のための参考資料として、情報モラルの学習が必修の内容に位置付けられている中学校学習指導要領の技術・家庭科「情報とコンピュータ」に記載されている指導内容とその取り扱いも掲載した。

徒像と目標」を引用した。また、技術・家庭科以外の教師のための参考資料として、情報モラルの学習が必修の内容に位置付けられている中学校学習指導要領の技術・家庭科「情報とコンピュータ」に記載されている指導内容とその取り扱いも掲載した。

(4) 情報モラルの指導場面

各教科・領域で情報モラルの指導内容に触られる具体的な場面と内容を例示した。内容項目をクリックすると授業展開例やワークシートが備わっている教師用解説の画面が表示される(図3)。

図3 情報モラルの指導場面

各教科・領域の指導場面(例)			
教科	情報モラルの指導ができる内容・場面	内容項目	内容項目
国語	1年 討論ゲームをしよう	テーマ例 中学生に携帯電話は必要か?	(14) 携帯電話の利用
	2年 意見を書こう	テーマ例 インターネットの可能性	(1) インターネットの利用
	3年 ノベルディスカッションをしよう	テーマ例 インターネットショッピング	(1) インターネットの利用
社会	地理分野 身近な地域を調べよう	情報を集めよう(インターネットの有効活用)	(1) インターネットの利用
	歴史分野 大正モダニティー	情報の収集、選択、判断(信頼性)、活用	(2) 情報の信頼性
公民分野	戦後の日本	生活の変化(ラジオ放送の始まり)	(2) 情報の信頼性
	現代の社会を探ってみよう	近代情報社会の始まり	情報社会のセキュリティ (1) エンターウェア
流通の仕組み	ネットショッピング(オンラインオフ等)	プライバシーの権利	(4) プライバシーの尊重
	インターネットでの検索	インターネットでの検索	(1) インターネットの利用
	電子メールでの問い合わせ	電子メールでの問い合わせ	(1) 電子メールの発信責任

(5) 情報モラルの指導系統表

小学校・中学校・高等学校の各段階での情報モラルの育成を図る指導内容を一つの表にまとめた。小学校から高等学校までの情報モラルの指導内容を一目で見通すことができるため、教師が、中学校段階での情報モラルの指導内容をとらえるための手だての一つとなる。

(6) 情報モラル年間指導計画

精選した指導内容の16項目を基に、中学校で具体的にどのように指導するか3年間の指導計画例を提示した。学校の実態に応じて参考にできるように、全14時間(図4)、全12時間、全9時間の、三つの例を作成した。

図4 情報モラル年間指導計画例(全14時間)

情報モラル教育年間指導計画例①(中学校3年間 全14時間)				
題材	目標	学習の流れ	教材・資料	指導場面
個人IDとセキュリティ (6)インターネットの個人情報の保護	個人IDとパスワードを受け取り、ネットワークへの参加意欲を持つことができる。	学習の流れ ・個人IDとパスワードの配布。 ・パスワードの自己管理の大切さについて考える。 ・ネット犯罪の事例を紹介する。	教材・資料 「インターネットがイブツク!」 展開例①	指導場面 技術・家庭科(技術分野) 総合的な学習の時間
インターネット利用の約束(ネチケット)	ネチケットの内容を認識し、適切な情報や不要な情報の送受信に対する自己責任、相手への配慮について考えることができる。	・ネチケットの確認 ・必要に応じてインターネットの種類法を確める。 ・迷惑情報に関する問題事例を取り上げ、対処法を考える。 ・相手へ配慮について考える。 ・トラブルに巻き込まれないために注意できることを確認する。	・各校のコンピュータ使用の決まり ・ネット社会の歩き方 ・情報モラル指導資料集(文部科学省委託事業)	総合的な学習の時間
電子メール チェーンメール いじめ・誹謗・中傷	メールを送信する際、書き方によっては相手を傷つけることがあることを知り、相手への思いやった行動をとるようになる。	・チェーンメール、誹謗、中傷内容のメール作成の手順、話し合う。 ・電子メールのモラル(宛先の入力、件名をつける、本文の作成)	ぐんまIT活用ガイド モラルセキュリティ編P17~	特活 道徳 総合的な学習の時間

(7) 情報モラルの指導内容

ア 情報の収集

家庭でも学校でもインターネットを一番多く活用する場面は、情報収集の場面である。「自分の身は自分で守る」というインターネットを利用するときの基本的な態度を身に付ける。また、収集した情報の信頼性を確かめながら利用することや、情報収集の際に、誤ってあるいは興味本位で有害サイトを開いてしまったりしたときの対処方法を身に付け、インターネットを安全に利用する態度を育てる。

イ 情報の発信

インターネットでは、一度発信された情報は、瞬時に世界中に伝わり、回収は不可能である。そこで、情報の発信には、細心の注意を払わなければならない。また、情報の発信時に配慮すべき事項を理解し、情報の発信者に求められる人権への配慮や他人への思いやりの心を育成し、実践する力を育てる。

ウ インターネットの利用

インターネットでは、生徒であっても一般社会人と同等の扱いを受ける場合が多い。また、日常生活の範囲内では軽微と見なされるミスであってもインターネットを介した場合、影響が広範囲になる場合がある。日常生活と同様、インターネットを利用する際にもエチケットがあること、インターネットショッピングでのトラブルやインターネットを過剰に使用することで心身へ悪影響をもたらすこともあるということを知らせ、目的をもち、インターネットを有効に活用する態度を育てる。

エ コミュニケーション

携帯電話や電子掲示板などのネットワーク上のコミュニケーションは、生徒たちにとって興味・関心が高く、実際に活用し、犯罪やトラブルに巻き込まれるケースも多い。ここでは、具体的な活用場面や事件例を示し、より良いネットワーク上のコミュニケーションの利用法を考えさせる。

オ セキュリティ

コンピュータウイルスや不正アクセスによるトラブルの急増を示す統計データをグラフ化したり、具体的に身近に起こっている犯罪例を示したりして、「自分で自分の身を守る」セキュリティ対策の重要性を認識させる。

(8)各項目の構成

指導内容の16項目について教師用解説、授業展

開例、ワークシート、配布資料を作成した。授業実践ですぐに使えるように、展開例、ワークシート、配布資料は、そのまま印刷したり、補足や修正などの加工ができるように、PDF形式と文書ファイル形式で準備した。

ア 教師用解説

指導内容の各項目についての現状と課題、指導のポイントを簡潔に解説した。指導のポイントとなる内容や語句については、さらに別の説明画面にリンクを設定し、詳しい解説が表示されるようにした(図5)。

図5 教師用解説画面

(1)インターネットの利用

授業展開例	PDFファイル(34KB)	一太郎ファイル(26KB)
ワークシート	PDFファイル(24KB)	一太郎ファイル(26KB)
配布資料	PDFファイル(147KB)	一太郎ファイル(24KB)

生徒たちは、これまで学校で総合的な学習の時間をはじめ、調べ学習、課題解決学習など多くの場面でインターネットを活用してきました。それとともに、インターネット活用のモラルやマナーについても適宜指導を受けてきました。しかし、近年、実際にモラルやマナーは急速に普及してきています。生徒個人のインターネット活用の技能や利用上のモラルやマナーについての知識や考え方についても、個人差が大きいようです。そこで、これから学校でも家庭でもますますインターネットの活用が増えてくると考えられる現状から、中学校に入塾した早い段階で、インターネットの利用について基本的な考え方を確認し、インターネットを安全に楽しく活用する力を身に付けさせることが大切です。

インターネット利用の基本的な考え方

- ①自分の身は自分で守る
- ②他人を思いやる
- ③声や表情は伝わらない
- ④ユーザーID・パスワードを管理する
- ⑤個人情報やプライバシーを守る
- ⑥インターネットと匿名性

クリックすると別ウインドウで解説画面が開く

これらは、理解して実践しようとする態度を身に付けることが大切です。

イ 授業展開例

社会科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの各教科・領域でそれぞれの指導内容に関連して、短時間で情報モラルの指導ができるように20分前後で指導が行える授業展開例、ワークシート、配布資料を(図6)を作成した。

図6 授業展開例

【展開例 人権・プライバシーの尊重】

学年：第3学年
 場面：社会科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など
 ねらい：個人情報やプライバシーを尊重し、他人の人権やプライバシーを尊重しようとする態度を育てる。

時間：20分
 教材：ワークシート、配布資料

時間	主な学習活動	教師の支援及び留意点	評価項目
5	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で、人権やプライバシーが侵害されている場面について考える。 ○個人情報という言葉を確認する。 ○配布資料を見て、気付いたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートをもとに人権とは、プライバシーとは何か確認する。 ○身近な日常生活の中から人権やプライバシーの侵害されている例を提示する。 ○基本4情報をおさえる。(氏名、住所、性別、生年月日) ○資料中の問題点に着目させる。 ・写真も個人情報にあたる。 ・勝手に他人の写真を公開した。 ・自分や友だちの住んでいる町の名前を公開していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報を慎重に取り扱っている。 ○取り扱った、自分の人権やプライバシーを尊重しようとしている。

ウ ワークシート

指導内容に関する問題に答えさせたり、事例について自分の考えをまとめさせたりする。

エ 配布資料

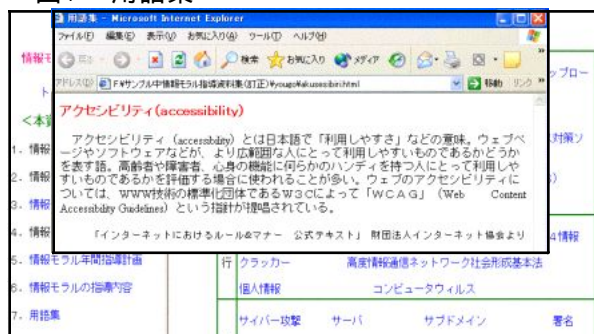
学習内容の中で確認しておくことや知識として

きちんと身に付けさせることについて、資料として生徒に配布する。授業の導入における動機付けや内容の補足説明に用いる。

(8) 用語集

情報モラルの育成を図る上で必要な用語を50音順でまとめた。調べたい用語をクリックすると別ウィンドウで、用語の意味が表示されるように設定した(図7)。

図7 用語集



授業実践

1 実践の計画

次のような実践を行い、作成した本指導資料集の有効性を検証した。

(1) 検証の観点と方法

検証の観点	検証の方法
各教科・領域において情報モラルの指導が行える具体的な単元や内容の例を示したことや、中学校での情報モラルの指導内容が一目で分かる年間計画例を掲載したことは、教師がどの教科でどのような教材や内容を指導するかとらえることができ、情報モラルの授業実践を行うに当たって役立ったか。	・ 授業実践 1 ・ 授業実践 2 ・ 授業実践後のアンケートの分析
本資料集に指導内容に基づいて作成した教師用解説や授業展開例、ワークシート、配布資料を添付したことは、教師が教材研究や授業実践を行うに当たって役だったか。	

(2) 授業実践 1

次の内容で、教科担任とのチームティーチングで授業を実施する。

対象	沼田市立利根中学校 1年 33名
教科・領域・単元名	社会科 地理的分野 群馬の地帯的特色を探ろう(都道府県の調査)
単元のねらい	群馬県の地理的事象から課題を設定し追求する活動を通して、群馬県の地帯的特色をとらえさせる。
期間	平成17年10月上旬 全8時間予定(うち、第5時及び第7時において情報モラルの指導を行う)
授業者	T1:社会科担当 T2:長期研修員

第5時 本時のねらい	インターネットで得た情報の信頼性を考えながら、群馬県の地帯的特色を調べるために必要な情報を収集する。		
環境	コンピュータ室 FMV K630 生徒機37台		
準備	教師:情報の信頼性についてのワークシート 生徒:地理ファイル(前時までのワークシート)		
学習活動	時	指導上の留意点	評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性について考える。 ワークシートを活用し信頼できる情報源、信頼できない情報源にはそれぞれどのようなものがあるか考える。 入手した情報の信頼性を確かめるには、どのような方法があるかを考える。 配布資料を読み情報を受け取るときの心構えを確認する(図8)。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習(インターネットを活用した情報収集)を振り返り、インターネットで収集した情報は本当に正しいものなのかを考えさせる。 信頼できる、できない理由も発表させるようにする。 配布資料を活用し、情報を受け取るときの心構えや信用できる情報の目安についても確認する。 	<思考・判断> 情報の信頼性について考え確認し、情報の収集を行うことができたか。
<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性について考えながら、インターネットを利用し群馬県の地帯的特色を調べるために必要な情報の収集を行う。 	40分	<ul style="list-style-type: none"> 情報の信頼性を確かめたり信頼できる情報源を選んでいるか助言する。 信頼できる情報源を利用しているか。(公的な機関か私的な機関かなど) 情報発信者(企業)名や住所、電話番号などが明記されているか。 Webページ更新の日付表示を確認する。 資料集や他のWebページなど違う情報源と、比較する。 	<思考・判断> インターネットで得た情報の信頼性を考えながら、群馬県の地帯的特色を調べることができたか。

第7時 本時のねらい	課題を解決するために収集した資料やインターネットから得た情報を、引用のルールを意識しながら発表の補助資料としてOHPシートにまとめる。		
環境	1年A組教室		
準備	教師：ワークシート、配布資料 生徒：地理ファイル、発表用OHPシート		
学習活動	時	指導上の留意点	評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 群馬県の地域的特色を調べるために集めた資料や情報を、まとめるときにグラフをコピーして貼り付けたり、Webページに載っている文章をそのまま使っても良いかどうか考え、発表する(図9)。 配布資料を参考にして、引用のルールを確かめる。 発表用のOHPシート作成のポイントを確認する(図10)。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> これまでの情報収集やそのまとめ方などを思い起こさせる。 自分の主張や意見をはっきりさせ、補うために、書籍や統計資料などから必要な部分を取り入れて使うには、引用という方法をとることができることを伝える。 他人のものを無断で使わないことが大切で引用や出典を明記することは、著作者や著作物を大切にすることにつながることに気付かせるようにする。 	<p><関心・意欲・態度> 引用のルールを理解し、著作物や著作者を尊重する態度を身に付けられたか。</p> <p><知識・理解> 引用のルールを理解できたか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 発表用のOHPシートをまとめたり発表の準備、練習を行う。 引用のルールを意識しながら発表用のOHPシートをまとめる。 	35分	<ul style="list-style-type: none"> 引用のルールとして、収集した資料を活用し掲載する場合、出典や引用、資料の発行年月日を明記するよう助言する。 発表の内容の検討、発表の役割分担などを行わせる。 発表の流れ(以下 ~)を指示する。 課題 仮説 情報の収集について まとめる過程 結果 疑問や感想 	<p><技能・表現> 課題を解決するために収集した資料やインターネットから得た情報を引用のルールを意識しながら、発表用のOHPシートにまとめられたか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 次時の予定を確認する。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> 引用のルールについて感想を発表する。 各グループで発表会に間に合うように準備するように助言する。 	

図8 第5時使用の配布資料

配布資料

● 受信した情報の信頼性

<情報を受け取る時の心構え>

- 調べたことを自分で判断する
(受信した情報が正しいか、最新の内容か、自分で判断する。)
- 発信元を確認する
(公的な機関であれば無責任な情報の発信はほとんど無いと考えてもよいかもしれませんが、確実ではありません。)
- 他の情報源と比較する
(関連する他のページを見たり、新聞や雑誌、テレビ、図書館の資料、教科書などで関連する情報を調べる。)
- 自分で調べてみてどうしても分からないときは、先生や親に相談する。

<信用できる内容かどうかの目安>

- ・作成している人への連絡方法がのっているか。
- ・参考になっている資料や情報かのようなものか
- ・Webページを変えた日付が表示されているか
- ・他のWebページと情報を比べ、同じ内容になっているか。

図9 第7時使用のワークシート

ワークシート

考えてみよう!

集めた資料や情報をまとめるときに、グラフや写真資料、文章などをそのまま使っても良いのでしょうかその理由も考えてみましょう。

自己評価 年 組 番 指名

十分できた	まあできた	もう少し	評価
引用のルールが分かった			
発表用シートに出典等を明記できた			
自分なりに工夫してシートにまとめることができたか。			
発表用シートが仕上がったか			
出典、引用の明記、著作権について自分の考えを書いたかどうか。			

図10 第7時使用の配布資料

配布資料

● 集めた資料や情報、写真を
ベタベタ貼らずにきれいな発表資料にしよう?...

● 引用

- ・他人の図や文章を使うこと
- ・新聞、雑誌の写真やグラフ、統計資料や解説記事もレポートに取り入れて使うことなど

引用のルール

- ①他人の図や文章を取り入れる必要があること(ただの飾り的なものはだめ)
- ②引用する部分自分が書いたものより少ない分量であること(あくまでも自分が書いたものが主で、引用したものが参考であるような形になることが必要)
- ③引用する部分をかきカッコ(『』)などをつけて区別すること
- ④引用した本などの題名や著作者名が表示されていること

(出典を明らかにすること)

*本や雑誌は、書名(書名は『』)、著者名、出版社名、発行年月日を、明記する。
インターネットからの情報はホームページ・URLを明記する。

引用のルールを守らず勝手に使用することは、著作権法に違反することになります。著作権法に違反すると罰金や罰金もあります。

★みんなも、教科書や資料集を参考にして、出典を明記しよう!

(3) 授業実践2

各学年の担任や教科担当が、本指導資料集の指導場面例を参考に、情報モラルの指導を行うことができる場面を選定し学年やクラスの実態に合わせ授業展開例やワークシート、配布資料を加工して授業実践を行った。

学年	教科・領域など	単元・題材名など	指導内容
1,2,3学年	音楽科	混声合唱をしよう	著作権の尊重
3学年	保健体育	健康な生活と疾病の予防	健康上の問題
1学年	学級活動	インターネットの利用	インターネットの利用
2学年	学級活動	携帯電話の利用	携帯電話の利用
3学年	短学活	学年便りに携帯電話の利用について記載し、生徒や保護者に啓発を行う	携帯電話の利用

3 結果と考察

(1) 授業実践1

第5時で取り扱った「情報の信頼性」については、33人中28人の生徒が、インターネットの情報を疑わず活用していたため、情報の信頼性について考える良い機会となり、情報モラルの指導場面として適切であったと考える(表1)。

表1 授業後の生徒の感想(第5時)

<ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報の見分け方について知ることができた。 ・できるだけ公的な機関から発信されている情報を集めるようにしたい。 ・信頼性を考えながら情報を収集し活用したい。 ・信頼できる情報を見分けることが大切だと思った。

インターネットを使って情報を収集する学習中の10分程度という短い時間の指導であったが「情報の信頼性」について、生徒は、収集した情報をうのみにせず、複数の情報源が発信する情報を比較検討することの大切さに気付くことができた。また、情報の信頼性を考えるためのポイントを示した配布資料は、短時間で効率よく指導内容を理解させるために役立った。

第7時では、第5時と同様に授業のはじめ10分程度で、配布資料やワークシートを用いて「引用のルール」について確認した。本時の学習活動の中では、なぜ資料名や出版社、発行年月日をきちんと記入することが必要なかを理解して、発表用のOHPシートの作成をすることができたと考える(表2)。

表2 授業後の生徒の感想(第7時)

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと他人の考えを区別することは大事だ。 ・許可なく使用することがよくない。 ・引用のルールを守ることは著作権への配慮になる。

チームティーチングで協力をいただいた教科担当の教師からは「今回の授業実践では、時間は短くても情報モラルの指導したい内容を、簡潔に示す配布資料があったため、指導内容を簡単に確認することができた。今後も機会をとらえて今回の指導内容を定着させられるよう、取り扱っていききたい。」また「基になるワークシートや配布資料があるため、そのまま使用することができたり、一部加工もできるため、汎用性も高く授業準備も短縮できると思う。」などの意見が出された。

以上のことから、本指導資料集の授業展開例を参考にすることにより、10分程度の短い時間でも、各教科・領域の学習に関連して効果的に情報モラルの指導内容に触れられることが分かった。また、授業展開例とともに添付した配布資料やワークシートは、短い時間の指導でも簡単に指導の要点を把握することができ、授業の準備や教材研究にも役立ったと考える。

(2) 授業実践2

本指導資料集を試用して、学級活動で情報モラルの指導を行った各学年の担任は、本指導資料集の授業展開例をもとに、展開の仕方やワークシートを、それぞれのクラスの実態に合わせて加工したり、教室にプロジェクタを持ち込み、実物のインターネットの検索画面を提示したりするなどして授業実践を行った(図8)。

図8 授業の様子



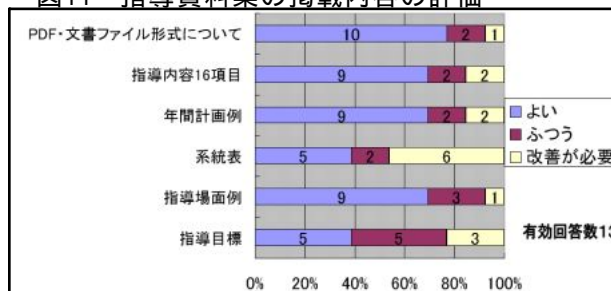
実践を行った教師からは、「ワークシートや配布資料が文書ファイル形式で添付してあるため、自分で修正や補足がしやすい。」「授業展開例は、ポイントを絞ってもっと深く考えることができるような展開があっても良いのではないか。」などの感想や意見が出された。

音楽科や保健体育科、短学活で実践を行った教師からは、「授業の中でも、配布資料があれば、必要なところだけ短時間で取り扱うことができる。」「指導内容については、時代を反映している内容で、必要性を感じた。」などの感想や意見が出された。

(3) 授業実践後のアンケートの分析

各学年の担任や教科担当が、本指導資料集から情報モラルの指導を行うことができる場面を選定し、授業実践後に、アンケートを行い分析した。結果は以下のとおりである(図11)。

図11 指導資料集の掲載内容の評価



アンケートに記述のあった意見や感想には、本指導資料集に掲載した指導目標は、「目指す人間像や具体的なねらいが項目立てであるためすっきりと見やすいが、もう少し簡潔な記述にすると理解しやすいのではないか。」「各教科・領域における情報モラル育成のための指導場面を具体的に例示したことは、いつ、どこで、どのような指導を行うか授業を計画するときの参考になると思う。」という意見があった。

また、年間計画例については、「実際に各校で年間計画を作成するとなると各教科・領域の教育課程との関連性もあるので、年間計画の作成や実践は難しいのではないか。」という意見もあったが、「計画的な情報モラルの指導を具体的にを行うために参考になる。」「授業を行うに当たっての具体的な題材やねらい、学習内容が簡潔に明記されているため、授業実践の時期や場面を考えるために参考になる。」などの意見もあった。

指導内容16項目については、「現在必要と思われる具体的な指導内容で良いのではないか。」「各教科で取り扱える具体的な授業展開例があれば、より使いやすいものになるのではないか。」などの貴重な意見もあった。また、「教師用解説は指導内容の各項目について、簡潔に短い文章で示され、内容の指導の要点が箇条書きになっているため、見やすいページになっている。」「指導の要点をクリックすると、別の画面で内容説明が表示されるため使いやすい。」という感想もあった。

以上のことから、年間計画例や指導場面例を掲載したことは、教師が情報モラルを育成するための授業実践を行うに当たって役立った。また、指導内容の16項目について添付した教師用解説や授業展開例、ワークシート、配布資料は、教師が教材研究や授業実践を行うに当たって役立った。本指導資料集は、中学校の教師が技術・家庭科の授業に頼らず、各教科・領域において、情報モラルの授業実践を行うに当たって役立つものであると考える。

まとめと今後の課題

1 まとめ

本研究では、中学校の各教科・領域において、生徒の情報モラルを育成するための授業実践に役立つ情報モラル指導資料集の作成を行った。これを置籍校で活用し、授業実践を行った。その結果、

以下のことが分かった。

各教科・領域で情報モラルの指導場面例や指導内容が一目で分かる年間指導計画例を掲載したことは、教師が授業実践を行うために参考になった。

指導内容に基づいた教師用解説や授業展開例は、教師が実践授業を行うための教材研究を効率よく行うために役立った。また、授業展開例、ワークシート、配布資料をPDF形式と文書ファイル形式で添付したことは、印刷してすぐに利用できたり、生徒の実態に応じて加工して利用できたりして、授業実践に役立った。

2 今後の課題

本指導資料集を作成し、授業実践を行った結果、以下のような課題があることが分かった。これらの課題は、今後解決していきたいと考える。

情報モラルの指導を各教科・領域で取り扱うには、様々な指導場面で効果的に利用できる実践事例を増やす。

効果的な情報モラルの指導を行う上で、教師が生徒の実態を把握するために有効な、意識調査やアンケートなどの参考例を収録する。

生徒の発達段階や家庭環境、各学校における情報モラルの指導の現状を踏まえ、情報モラルの指導の在り方を明らかにする。

<主な参考・引用文献・URL>

- ・コンピュータ教育開発センター 『インターネット活用のための情報モラル指導資料集』 文部科学省（2001）
- ・財団法人インターネット協会編 『インターネットにおけるルール&マナーこどもばん公式テキスト』 財団法人インターネット協会（2005）
- ・財団法人インターネット協会編 『インターネットにおけるルール&マナー公式テキスト』 財団法人インターネット協会（2005）
- ・群馬県教育委員会学校指導課編 『ぐんまIT活用ガイド』 群馬県（2002）
- ・情報教育学研究会 『インターネット社会を生きるための情報倫理』 実教出版（2005）
- ・ねちずん村
URL <http://www.netizenv.org/>

（担当指導主事 小林 努）

（担当指導主事 平形 隆正）